

新潟市における

医療と介護の 出前スクールの ご紹介

新潟市保健衛生部地域医療推進課
新潟市在宅医療・介護連携センター
(新潟市医師会 地域医療推進室)
秋山 貴子
細道 奈穂子



事業目的

新潟市では、市民が住み慣れた地域で安心して生活できるよう在宅医療・介護連携推進事業を行っており、その取り組みの一つとして、次世代を担う小・中学生及び高校生を対象とした「医療と介護の出前スクール」を2018年から実施しております。昨年度は31校で行わせていただきました。

実施主体

市内11か所の医療機関および医師会が市の委託を受け事業を行っております。医療と介護の出前スクールの他、市民を対象にした在宅医療や認知症をテーマにした講演会を開催したり、また住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう医療と介護の切れ目ない支援体制の構築を目指して活動しています。

- 在宅医療・介護連携センター (新潟市医師会)
- 在宅医療・介護連携ステーション 北 (豊栄病院)
- 在宅医療・介護連携ステーション 東 (新潟臨港病院)
- 在宅医療・介護連携ステーション 東第二 (木戸病院)
- 在宅医療・介護連携ステーション 中央 (斎藤内科クリニック)
- 在宅医療・介護連携ステーション 中央第二 (総合リハビリテーションセンター・みどり病院)
- 在宅医療・介護連携ステーション 江南 (亀田第一病院)
- 在宅医療・介護連携ステーション 秋葉 (新津医療センター病院)
- 在宅医療・介護連携ステーション 南 (新潟白根総合病院)
- 在宅医療・介護連携ステーション 西 (済生会新潟病院)
- 在宅医療・介護連携ステーション 西第二 (信楽園病院)
- 在宅医療・介護連携ステーション 西蒲 (西蒲中央病院)

新潟市内の連携センターと
各区の連携ステーション



新潟市在宅医療・介護連携センター
ホームページ
<https://www.niigata-rc.org/>

令和3年8月現在 全11箇所

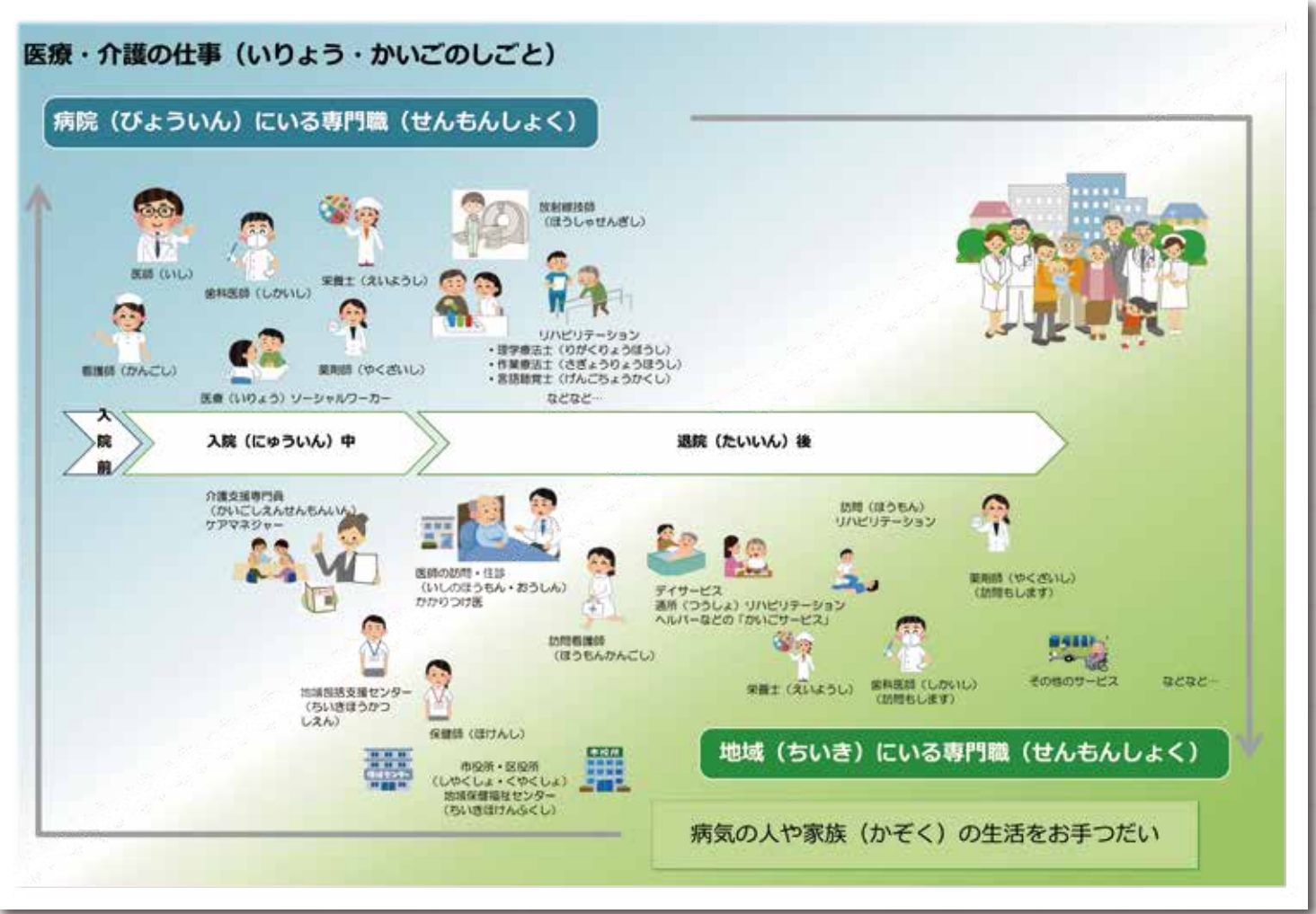
メニュー

医療・介護の専門職が講師となり、仕事についての喜びややりがいをお伝えしています。

開催日時や希望の職業は、申し込みをしてくださった学校のご要望に合わせています。学校によって、授業のねらいや目的、希望する学年も違いますので、担当教員と事前に打ち合わせを行います。担当教員も医療・介護の職種が多さに驚かれますので、簡単に職業の説明を行うところからの打ち合わせです。そして、授業の時間数はどれくらいなのか、体験的なことも含めるのか、生徒数や教室の広さの確認、感染予防対策も考慮しながら相談し、職種と内容を決定します。

「介護」と「医療」それぞれの講師にお願いし、2種類の職業の授業を行うことが多いです。授業の初めに、このイメージ図を用いて、病気や障がいを持つ人々が住み慣れた地域や自宅で生活していくことを望んでいる人が多いこと、そして家族だけではなく、医療・介護関係の人が連携して支援していることをお話しします。

地域によっては、療養している人が身近にいる子供たちも多く、「デイサービスに行く車を見ても見るよ」「おばあちゃんのところに来ていた訪問看護師さんとお話したことがあるよ」「おじいちゃんを通っている病院に一緒に行ってリハビリを見たよ」などの言葉が次々と子供たちからも出てきます。



お願いした講師には、ユニフォーム姿で授業をしていただいています。

今までに講師でお願いしたのは、医師、保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、薬剤師、介護福祉士、精神保健福祉士、診療放射線技師、ケアマネジャーなどです。

医療や介護についての知識を伝え、その職業について必要な資格や勉強についてもお話していただきます。子供たちから質問も多く出ます。

体験をしていただくこともあります。例えば、聴診器を使って呼吸の音や心臓の音を聴いてもらう、脈の数やリズムを確認してもらう、処方箋を見ながら薬の調剤をする、薬との飲み合わせによる変化を見てももらうなどです。グループワークとしてケアプランを作ってもらったこともありました。体験が難しい場合は、クイズなどを用います。診療放射線技師の時は、病気だけでなく食べ物や画像などを使って楽しい授業になりました。